



# 目次

まえがき 11

## 第一章 問いかけの前提

一・一 挑戦 14

一・二 理論 16

一・三 モデル 19

一・四 合意可能性と合意性 22

## 第二章 あいまいさのないコミュニケーション

二・一 媒体としての言語 32

二・二 理想的な言語としての数学 34

二・三 論理的な必然性 37

二・四 数学的機構 40

二・五 比喩とモデル 47

二・六 経験の論理学 54

二・七 物理学と物理学主義 57

二・八 予見 61

二・九 理論と実験の一致 66

二・一〇 何を根拠に物理学を正当化するのか 74

### 第三章 共通の観測

三・一 同等な観測者 80

三・二 パターン認識 81

三・三 実験 99

三・四 機器の使用 105

三・五 シグナルかそれともノイズか 111

三・六 発見 122

### 第四章 世界地図と世界像

四・一 物質的な地図 132

四・二 比喻としての地図 138

四・三 絵（スケッチ）や写真の効用 143

四・四 パラダイム 147

四・五 誤りやすさ 154

## 第五章 リアリティ（実在性）の本質

五・一 知覚 160

五・二 人工知能 164

五・三 論理学を超えて 166

五・四 直観 168

五・五 行動と信念 174

五・六 客観性と疑い 177

五・七 科学の普遍性 180

五・八 自然言語 183

五・九 文化による認識の差異 191

五・一〇 リアリティと合意可能性 195

## 第六章 科学の世界

六・一 専門化と権威 202

六・二 科学はどのように習得されるか 205

六・三 異議と選択 210

六・四 リアリティを失わないために 216

六・五 どのくらい信じられるか？ 221

六・六 擬似科学主義 229

六・七 思考の限界 238

## 第七章 社会的知識

七・一 行動の科学 252

七・二 カテゴリーの不正確さ 254

七・三 社会的経験に関する代数学 260

七・四 実験による単純化 265

七・五 隠れた変数 269

七・六 モデル、オモチャそしてゲーム 273

七・七 シミュレーション 277

七・八 心についての共通主観性 281

七・九 感情移入の起源 285

七・一〇 社会の科学の限界 288

訳者あとがき 295

原注 342

さくいん 358

